

申 請 調 書

【R4 年度教育改革推進事業経費・一般公募型】 a. 学部・研究科プロジェクト

整理番号	(教務委員会記入)		
(プロジェクトメンバー)	所 属	氏 名	
代表者	観光学部 (副学部長, 教務委員長)	八島 雄士	
共同者、担当委員会、参加部局等	観光学部 (GP教育運営部会長, 教務委員)	永井 隼人	
	観光実践教育サポートオフィス (国際担当)	柴本 百合香	
申請事業名	学部と博士前期課程とのカリキュラム接続を円滑化する仕組み開発事業 - インストラクショナルデザインを視座に	申請額	834千円
事業の概要	<p>本事業は、<u>和歌山大学観光学部カリキュラムと博士前期課程新カリキュラムとの接続を円滑にする仕組みを、インストラクショナルデザインの概念を使って開発し、実装することを目的とする。</u></p> <p>和歌山大学大学院観光学研究科では、<u>第3期中期計画において大学院教育改革の一環として博士前期課程の新カリキュラムを作成してきた。</u>具体的には、内部進学者の増員を図るための1つの方策として、学部Global Program (GP2.0)と博士前期課程新カリキュラムとの間に共通項を組み込んだ。GP 2.0では、GP指定科目を履修し、英語で卒業論文 (Dissertation) を書くことを目指し、Language Skills、Academic Skills、Global Perspectiveの3要素を通じて基礎を身に付けたうえで、GP専門科目の履修により国際的に展開される観光学の専門知識を修得し、学びを発展させて、自らの考えを発信できる力を身につける内容とした。特に、Global Perspectiveを担う4科目で共通の英語テキストを導入し、GP教育運営部会のもとで運用している。一方、博士前期課程新カリキュラムでは、<u>観光学研究がグローバルに実施、展開されていることに鑑み、基礎科目、基盤科目、専門科目に加え、新たにアカデミックコミュニケーション科目を開講する。また、主に、英語テキストを使用するなどを検討している。</u>しかし、<u>新カリキュラム実装の場面では、両者の接続をより円滑にするため、GP2.0と同様の考え方を基盤とする教育方法を構築する必要がある。</u></p> <p>そこで、<u>これまでの経験や感覚など、いわば暗黙知に基づく教育プログラムの実装について、インストラクショナルデザインのフレームワークを用いて形式知化を図ることにより学部教育と博士前期課程教育との間での情報共有および担当者間のコミュニケーションの円滑化を図ることが期待される。</u>結果として、教育の質保証が担保され、<u>教学マネジメントの安定化を図ることができる。</u>以下、研究方法と研究スケジュールを示す。</p> <p>▼研究方法 インストラクショナルデザイン、特に、Dick&Carey システムアプローチモデルをよりの確に適用するために、第一に、インストラクショナルデザインの研究者による講演や助言により、<u>プログラム開発および運営者としての知識とスキルの向上を図る。</u>第二に、実際にGP2.0について、<u>プログラムの形式知化を図る。</u>その際に、<u>他大学における類似したプログラムを参考にし、より客観性を高める。</u>加えて、時間と環境を整えば、卒業生にインタビューを行い、効果検証への足がかりをつくる。なお、GPの実施において、<u>これまで対象となる学生のインタビュー・データの蓄積があるため、本事業で使用することを想定している。</u>加えて、最近、学内で環境整備が進んでいる <u>IR 関係のデータ利用を念頭</u>においている。</p> <p>▼研究スケジュール (予定 *講演会の実施時期は講演者と要調整。) 7月: 本プロジェクトの準備会を開催 8月: インストラクショナルデザイン研究者による講演、準備会を開催 9月: 他大学へのヒアリング調査実施、調査結果とりまとめ 10月: 教育学専門家による講演、準備会を開催し、改めて研究をレビュー (11月: 時間的に可能ならば、卒業生へのヒアリング調査実施、調査結果とりまとめ) 11~2月: 調査結果の分析とまとめ</p>		

事業のキーワード	インストラクショナルデザイン、教授方略、観光教育、国際教育、アカデミックコミュニケーション
各グランドデザインや 教学マネジメント指針、 本学中期目標・中期計画 との関連性	第4期中期目標・中期計画記載事項以外の主な取り組み（観光学部）において、「博士前期課程、博士後期課程ともに新しいカリキュラムを構築することで、学部から博士前期課程、博士前期課程から博士後期課程への内部進学を第3期よりも増加させる」ことを目標としている。本事業は、目標実現に向けた教育システムの検討を目的としている。具体的には、観光学研究がグローバルに実施・展開されている環境を念頭に、GP 2.0と博士前期課程新カリキュラムとの連携を図るために、システムティックデザインアプローチ・モデルを活用する方策を議論する。結果として、博士前期課程新カリキュラムに関わる教育の質保証に貢献できる。加えて、観光学部新カリキュラム構想の基盤とすることが期待される。
プロジェクトの必要性	和歌山大学観光学部における GP2.0 は、より高い教育効果を得ることができる体系的な教育プログラム構築を目指し、グローバル・プログラム(GP)の経験を基に、制度や方向性を一新した。教員のこれまでの経験や感覚に基づいて作成してきたプログラムの仕組みを、インストラクショナル・デザインのフレームワークを用いてシステムの設計図を作成することにより、GP2.0以外の学部カリキュラムや博士前期課程カリキュラムにも応用することが可能となるほか、担当者の交代に影響されることなく教育プログラムの質保証が実現できる点で、教学マネジメントの観点からも有益性が高い。設計図の作成により、GP2.0の教育効果の向上や設計整備の充実を狙うと共に、GP2.0の前衛的な取り組みが将来的には観光学部・観光学研究科のカリキュラム編成にも効果が波及することが期待される。
プロジェクトの新規性・ 発展性	本事業では、学部カリキュラムの一部を構成する教育プログラムの体系的なプロセスの組み立てを目指している。これまで、経験や感覚など暗黙知をベースに教育プログラムを開発してきた点に、システムティックデザインアプローチ・モデルによる設計図を作成する形で形式知化を試みる点に本事業の新規性がある。また、設計図は、その後の教育のモニタリングに活用することにより、安定的な運営に寄与すること、並びに、プログラム実施に関わる教員やスタッフのコミュニケーション円滑化に貢献できることが期待される点で発展性がある。
プロジェクトの実現性・ 全学の教育改革への波及 効果	実施を計画している講演に招待予定の研究者が日本国内にいること、ヒアリング対象が国内高等教育機関と本学部卒業生であることから実現性は高い。加えて、本プロジェクトの担当者は対象となるGP2.0の運営および実務担当であり、これまでの学生面談等のデータ蓄積もあり、実現性が確保できている。また、本事業において基盤となるインストラクショナルデザイン研究は、教育の効果・効率・魅力を高めるための研究の知見である。教育工学の分野で活躍する研究者を招いて講演を行うことで、参加した教員の教育実践においてインストラクショナルデザイン思考の知見を広めることができる。結果として、教育課程の改善の推進要因となり、教育の効果・効率・魅力の向上に寄与することが期待される。
特筆すべき事項	

実 施 計 画 表

実施計画（新規・継続）	経費区分	積算内訳
1.日本におけるインストラクショナルデザイン研究で活躍されている研究者を講師として招き、学内で講演会を開催する。 (想定：熊本大学教授)	謝金	講演料 68千円 (講演料 30千円+旅費 38千円)
2.日本における教育工学の専門家を講師として招き、学内で講演を開催する。 (想定：大阪大学教授)	謝金	講演料 40千円 (講演料 30千円+旅費 10千円/1名)
3.本学部のグローバル・プログラム (GP)またはGlobal Program (GP2.0)に類似しているプログラムを実施している大学 (学部、または全学の国際関係担当部局)へのヒアリングを実施する。	旅費	調査旅費 378千円 (想定：東京 旅費：45千円 2人×1回) (想定：京都 旅費：19千円 2人×1回) (想定：札幌 旅費：125千円 2人×1回)
4.グローバル・プログラム卒業生 (10～12期生) と現在の勤務先へのヒアリングを実施する。	旅費	調査費用 168千円 (想定：東京 旅費：45千円 2人×1回) (想定：兵庫 旅費：20千円 2人×1回) (想定：京都 旅費：19千円 2人×1回)
5.学生アルバイトにより収集した情報を整理する	謝金	データ入力・資料整 30千円 (9月～11月：33時間)
	その他	書籍購入費 50千円 (10冊) 報告書印刷費 100千円 (2,000円×50冊)

【記入要領】

1. 実施計画欄は、実施内容を箇条書きでなるべく詳細に記入し、その項目毎に積算内訳等を記入すること。
2. 経費区分：「人件費」「謝金」「旅費」「設備備品費(50万円以上の物品費)」「消耗品費(50万円以下の物品費)」「その他」
3. 積算内訳：実施計画の項目別に経費区分の積算根拠を詳細に記入すること。
4. 設備備品費(50万円以上の物品費)を要求する際は、見積書を提出すること。